

リモコンエンジンスターター

Engsta V II

エンジン・ファイブ

取付・取扱説明書

(保証書付)

⚠ 警告

本商品は、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。分解したり改造したりすることは法律で禁じられていますので、絶対に行わないで下さい。リモコンケースの裏面に貼られている技術基準適合証明ラベルは、はがさないで下さい。このラベルがはがれた状態で使用すると電波法違反となります。

はじめに

このたびは、本商品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。ご使用になる前に、本冊子を必ずお読み頂き、正しくご使用下さい。また、お読みになった後も本冊子は車検証入れなどに保管して下さい。そして、本商品を譲渡される場合や別のお車に取り付け直す場合も、本冊子を必ず製品に付帯させ、お使いになる方がいつでも見られる様にして下さい。また、コーションラベルも販売店から購入して下さい。

本商品は日本国内でのみご使用出来ます。

⚠ 注意

このエンジンスターターは、お取り付け時にオートマチック車の登録を行わないとエンジンを始動する事が出来ません。また、バッテリー交換や整備等によりバッテリー端子を外すと、オートマチック車の登録情報等*は消去されますので、再度登録する必要があります。詳しくは、本冊子10ページを参照願います。*キー始動学習器設定情報も同様に消去されます。

この取付・取扱説明書では安全上重要な項目に下記のマークを表示しています。

⚠ 危険 …… 死亡を含む重大事故の原因と成り得ることを意味する。

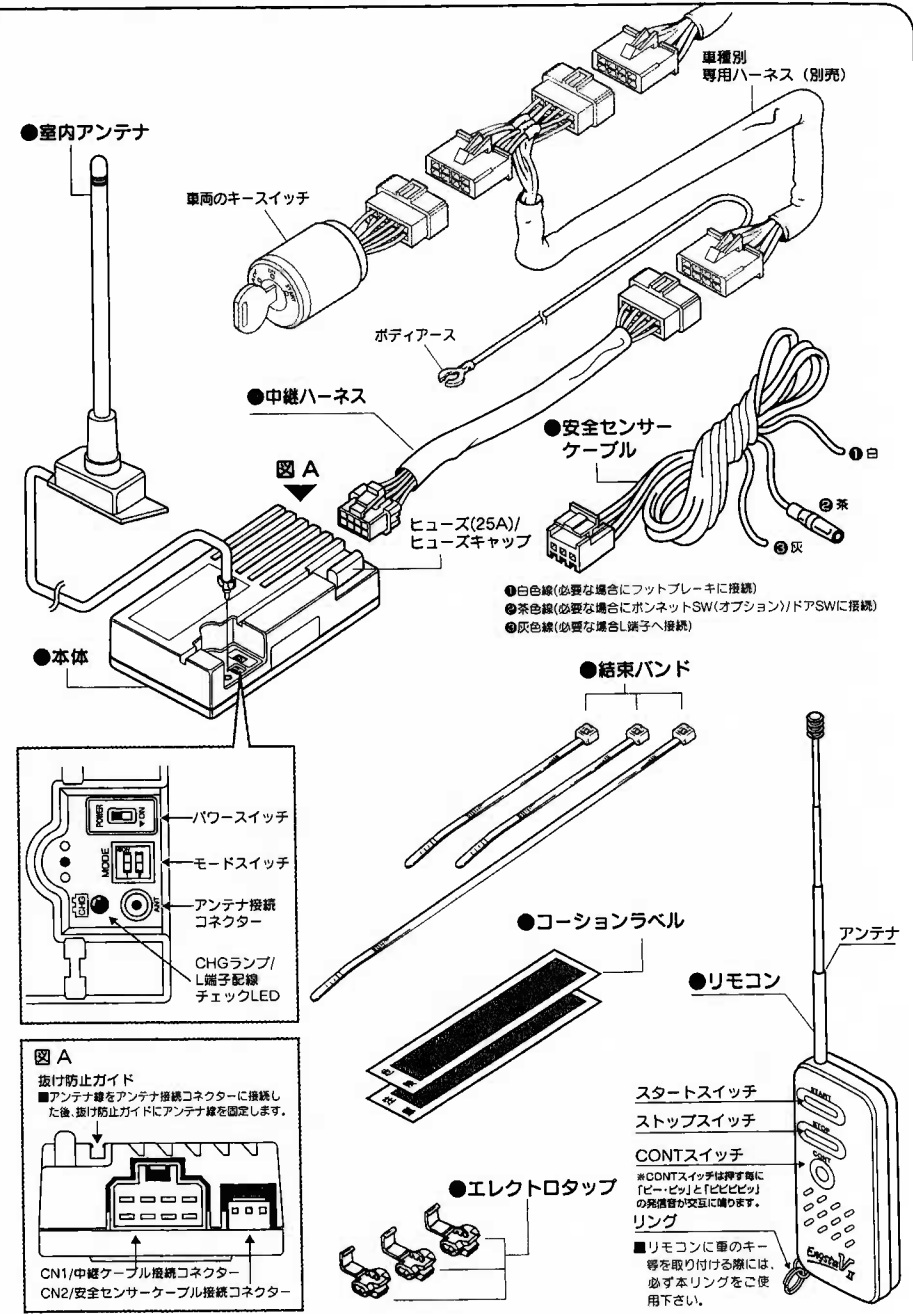
⚠ 警告 …… 死亡を含む重大事故に至る可能性があることを意味する。
又、法律に違反する事を意味する。

⚠ 注意 …… 人身事故の原因と成り得る事を意味する。
又、車や商品の損傷、故障等の原因と成り得る事を意味する。

- パッケージ内容 4ページ
- ▼お取り付け手順 5ページ
 - 本体モードスイッチメニュー
 - ブザー音一覧表
- お取り付け出来る車は・・・ 6ページ
- お取り付けの前に 7ページ
- 車種別専用ハーネスの取り付け 8-9ページ
- オートマチック車の登録 10ページ
- ▼動作確認を行います 11ページ
 - 動作確認上の不具合に於ける症状別Q&A
- ▼各種お取り付けを行います 12ページ
 - L端子検出へ変更
- ▼各種機能 13ページ
 - L端子誤配線チェック機能
- ▼各種お取り付けを行います 14-16ページ
 - フットブレーキ検出へ変更 14ページ
 - 室内アンテナの取り付け 15ページ
 - 本体の取り付け 15ページ
 - コーションラベルの貼り付け 15ページ
 - ボンネットスイッチを取り付ける場合 16ページ
 - ドアスイッチ配線を行う場合 16ページ
- ▼各種機能 17ページ
 - キー始動学習機能
- ▼ご使用上の注意 18-21ページ
 - オートライト装着車について 18ページ
 - オートチルト装着車について 18ページ
 - リモコンドアロック装着車について 18ページ
 - リモコン送信について 18ページ
 - 電波到達距離について 19ページ

- ▼ご使用方法 22-25ページ
 - リモコンでエンジン始動 22ページ
 - リモコンでエンジン停止 22ページ
 - タイマーで自動停止 22ページ
 - 本体動作の停止 23ページ
 - 本体動作の復帰 23ページ
 - アイドリング時間の設定 24ページ
 - 始動パターンの切替 25ページ
- ▼メンテナンス 26ページ
 - 電池の交換方法
 - 本体の電源を切る時は
 - リモコンを紛失した時は
- 故障とお考えになる前に 27ページ
- 仕様 28ページ
- 別売りアダプター 28ページ
- アフターサービスについて 31ページ
- 保証規定 31ページ
- 保証書 裏表紙

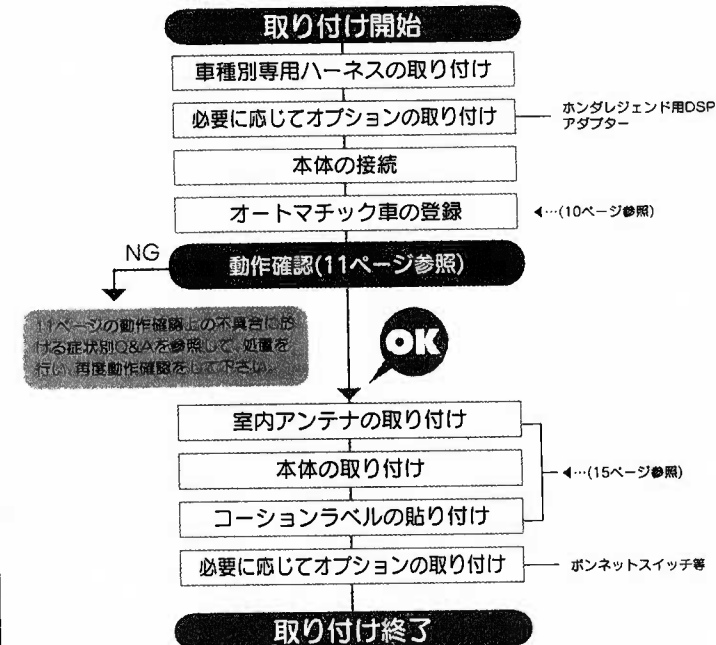
●パッケージ内容



●お取り付け手順

⚠ 注意

オートマチック車の登録操作を行わないと、本体は動作しません。



■本体モードスイッチメニュー

(商品出荷時は全てOFFとなっております)

モードメニュー	OFF	ON
シフト検出	シフトポジション自動検出	キャンセル(通常使用しません) ※フットブレーキへの配線が必要です。
始動検出	当社専用回路にて、エンジンの始動状態を検出	オルタネーターのL端子線の電圧変化のみで、エンジンの始動状態を検出する。 ※L端子への配線が必要です。

■ブザー音一覧表

(オートマチック車登録や各種機能設定時の反応音を除く)

ブザー音	本体のブザーが鳴る場合
カチカチ	●本体の電源が入った場合。
ブザー	●リモコンでエンジンが始動した場合。
ブザー	●リモコンでエンジン駆動中。 リモコン始動直後から5秒間隔(アイドリング20分モード)で鳴り始め、残り時間に運動して徐々に短くなります。 自動停止直前(1分前)は連続音になります。
ブザー	●スリープから復帰した場合。
ピーピー	●リモコンでエンジンが始動しない場合。
ピーピー	●リモコンでエンジン駆動中にエンストした場合。
ピーピー (繰り返す)	●車両との相性が悪い(悪くなった)場合。 ※技術サービスへお問い合わせ下さい。★警告音はキーをONにすれば停止します。

●お取り付け出来る車は…

⚠ 危険

詳しくは車種別専用ハーネス対応表をご覧下さい。

⚠ 危険

⚠ 危険

⚠ 注意

⚠ 注意

⚠ 注意

●国産車のみ、お取り付け可能です。

外国車へのお取り付けは出来ません。

●オートマチック車のみ、お取り付け可能です。

マニュアルミッション車へのお取り付けは出来ません。

●12V車のみ、お取り付け可能です。

24V車へのお取り付けは出来ません。

●電子制御燃料噴射装置搭載車のみ、お取り付け可能です。

電子制御燃料噴射装置搭載車、及び一部のディーゼル車で、イグニッションキーのみでエンジンを始動することが出来るお車のみ、お取り付け可能です。
エンジン始動時にアクセル操作やチョークレバー操作を必要とするお車、電子制御キャブレター搭載車へのお取り付けは出来ません。

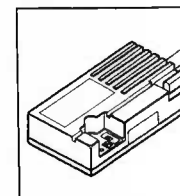
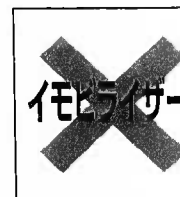
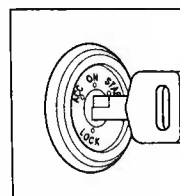
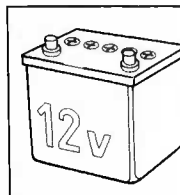
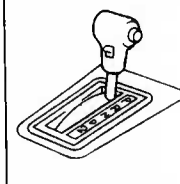
●イモビライザー及び一部のセキュリティシステム搭載車には、お取り付け出来ません。

イモビライザーとは、登録されたキー以外でのエンジン始動を阻止する盗難防止システムです。

●単体でのみ、お取り付け可能です。

他社製エンジンスターター、もしくはターボタイマーが取り付けられているお車にはお取り付け出来ません。(併用すると、それぞれが正しく動作しない恐れがあります。)

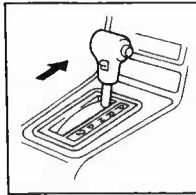
国産車



●お取り付けの前に

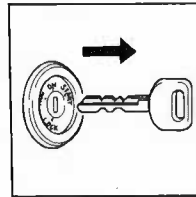
⚠ 危険

●シフトレバーは、必ずPレンジに入れて下さい。



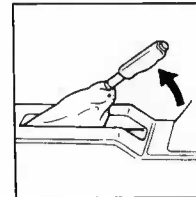
⚠ 注意

●お車のキーは必ず抜いて下さい。



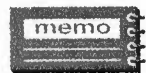
⚠ 危険

●パーキングブレーキは確実にかけて下さい。



⚠ 警告

車種別専用ハーネス対応表をよくご覧になり、お車に合った当社製専用ハーネスをご使用下さい。



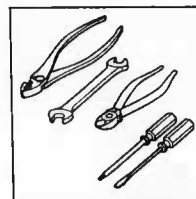
工具は別途ご用意下さい。

●他社製のハーネスは使用しないで下さい。

他社製エンジンスターター、もしくはターボタイマー用ハーネスを流用・加工しての取り付けは絶対にしないで下さい。車両故障、商品故障の恐れがあります。また保証対象外になります。

●取り付け工具について。

この商品を取り付ける際に必要な工具は一般的には次の通りです。プラスドライバー・プライヤー・ニッパ・スパナ等。



●車種別専用ハーネスの取り付け



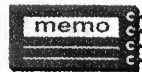
キースイッチの配線カプラーは基本的には車種別専用ハーネスのカプラーと同形状なのでそれを目安にしましょう。



アンダーカバーを取り外す際、車種によってはスピーカーカバー内や、コインボックス等に隠しネジが付いている場合があります。



ステアリングコラムカバーを取り外す際、車種によってはステアリングを90度回さないとネジが外せない場合があります。



ホンダ車の多くがこのタイプです。

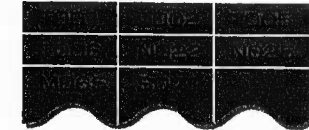
STEP-1 ●キースイッチの配線カプラーを探します。

配線カプラーの位置は大別すると次の4タイプになります。詳しくは車種別専用ハーネス対応表をご参照下さい。

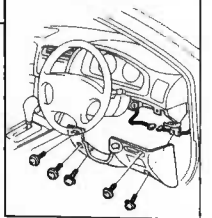
■タイプ1

●キーシリンダーより出ている配線の約20～30cm先にカプラーが位置しているタイプ。

専用ハーネス参考例



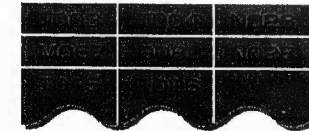
T001 接続例



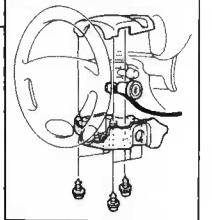
■タイプ2

●キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。

専用ハーネス参考例



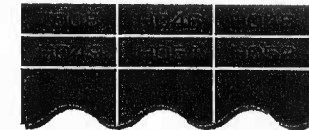
T003 接続例



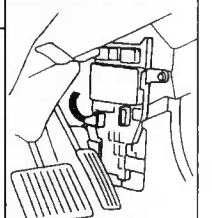
■タイプ3

●ヒューズボックスやジャンクションブロックに直接接続されているタイプ。

専用ハーネス参考例



H048 接続例



●車種別専用ハーネスの取り付け

⚠注意

専用ハーネスが2本に分かれているので、必ず全てのケーブルを接続して下さい。

⚠注意

ケーブルの接続は振動等で外れないように、最後まで確実に差し込んで下さい。

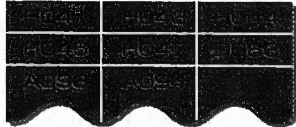
⚠注意

塗装されている金属部分や、車の振動等で緩んでしまう場所に取り付けると、本体がうまく動作しない事があります。

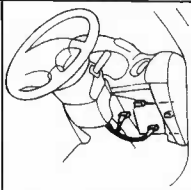
■タイプ4

- 配線ケーブルが2箇所に分かれているタイプ。それぞれの位置が離れているものがあります。

専用ハーネス参考例

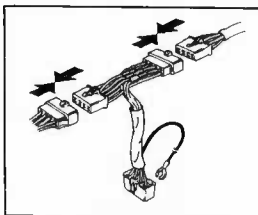


H044 接続例



STEP-2 ●専用ハーネスを接続します。

見つけたキースイッチの配線ケーブルを、いったん外します。車種別専用ハーネスを、外したケーブルの間に割り込ませます。



STEP-3 ●アース線を接続します。

車種別専用ハーネスから出ている黒色アース線を、単体の金属部分に確実に締め付けます。アース線接続が不完全な場合、動作が不安定となり、オートマチック車の登録情報が消去されたり、エンジン始動しない等の不具合が生じます。接続箇所を十分確認の上、適正な場所に接続して下さい。

取り付けに適している場所(ナット)

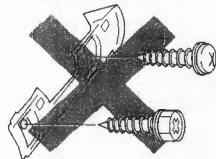
- 純正車両電装品のアースポイントに使用されているナット。
- 車体金属部分に止められた非塗装で大きめのナット。



黒色アース線

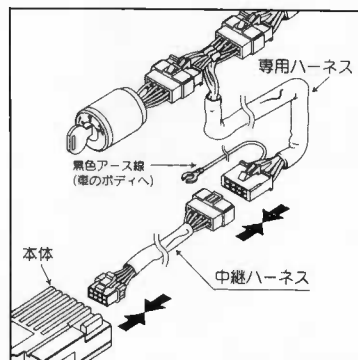
取り付けに適していない場所(ネジ)

- アンダーダッシュやセンターコンソール等、樹脂を止めているネジ。
- メッキや塗装により、電導率の低下した金属部分に止められたネジ。



STEP-4 ●本体を接続します。

本体に中継ハーネスを接続し、専用ハーネスの残りのケーブルと接続します。



●オートマチック車の登録 ※以下の操作はエンジンを始動させずに行ってください。

⚠注意

STEP-1の前に専用ハーネスのケーブルと本体のケーブルを中継ハーネスを使用して、接続して下さい。接続前に、本体のパワースイッチはONにしないで下さい。



断続音がしない場合は、アースが確実にとれているか、又ハーネスの設備が正しいか確認して下さい。

⚠注意

この時(STEP-2)、エンジンは始動させないで下さい。

⚠注意

シフト操作は、ブレーキを踏んでゆっくり操作して下さい。

⚠注意

断続音が変化した場合を必ず確認して下さい。



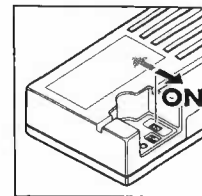
断続音が変化しない場合は、一旦作業を中断し、専用ハーネスの全ての配線が接続されているかを確認して下さい。尚、追加配線の場合はSTEP-1からやり直して下さい。

⚠注意

車両のバッテリー端子を外したり、専用ハーネスやアース線を外すとオートマチック車の登録情報が消去されます。この場合には、再度オートマチック車の登録を行ってください。

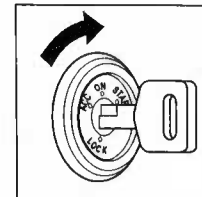
STEP-1 ●本体のパワースイッチをONにします。

この時本体から、ブープ…と断続音がします。



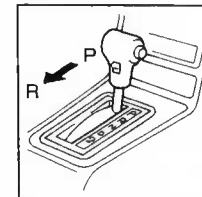
STEP-2 ●キーをさし込み、ONの位置にします。

この時本体からでる断続音が、ブプッ ブプッ ブプッ…へと変化する事を確認します。



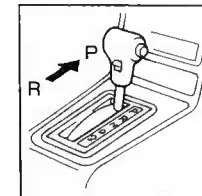
STEP-3 ●シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かします。

本体からでる断続音が、ブプッ ブプッ ブプッ…へと変化する事を確認します。



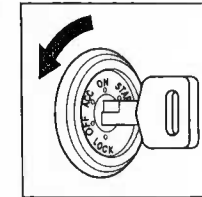
STEP-4 ●シフトレバーをRレンジからPレンジへと戻します。

この時本体からでる断続音が、ブプッ ブーと鳴り、オートマチック車の登録が終わった事を知らせます。



STEP-5 ●キーをOFFの位置に戻し、抜き取ります。

OK 以上でオートマチック車の登録は終了です。



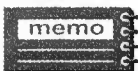
●各種お取り付けを行います

⚠ 警告

エアバッグ装着車は、エアバッグカバー部には固定しないで下さい。エアバッグ作動時にケガをする恐れがあります。

⚠ 警告

室内アンテナを筐体裏面に設置しないで下さい。急ブレーキ等により身体が前方に倒れた際、室内アンテナに顔をぶつけてケガをする恐れがあります。



別売りの「延長コード」をご使用になることでダッシュボード以外への取り付けも可能です。

⚠ 警告

配線コードが挟み込まれたりすると、断線やショートの原因となり、本体や車両の故障、さらには車両火災を起こす可能性があります。

⚠ 警告

本体は、直射日光の当たる場所、エアコンの吹き出し口等、高温になる場所や足下の水の跳ね回りや外部からの水の触れる場所には設置しないで下さい。

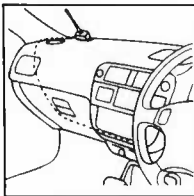
⚠ 警告

ボンネットを開けて作業をしている際に、誤って始動操作が行われると大変危険です。必ず目立つ場所に貼って下さい。

■室内アンテナの取り付け

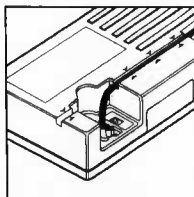
STEP-1 ●室内アンテナを取り付けます。

ダッシュボードサイドのピラーから10cm以上離し、出来るだけフロントガラスに近い平らな場所に設置して下さい。この際、アンテナエレメントがフロントガラスと平行になる様に座金の角度を調節します。尚、角度の調節は、アンテナエレメントにストレスをかけない様に基台をしっかり押さえて行って下さい。



STEP-2 ●本体のアンテナジャックにアンテナ線を差し込みます。

アンテナジャック(アンテナ接続コネクタ)に差し込んだ後、抜け防止ガイドにアンテナ線を固定します。

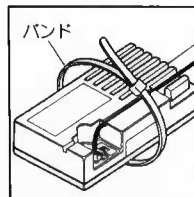


▲ 抜け防止ガイド位置

■本体の取り付け

STEP-1 ●本体を取り付けます。

本体及び配線ケーブルは、車両の可動部(チルトステアリング、アクセル、ブレーキ、パーキングブレーキ、アクセルリンク等)に支障をきたさぬ場所に設置し、付属の結束バンドで確実に固定して下さい。本体の取り付けが不完全な場合、落下等で運転に支障をきたし、重大な事故につながる恐れがあります。



STEP-2 ●外したアンダーカバー等を取り付けます。

■コーションラベルの貼り付け

- エンジンルーム内の目立つ場所に必ず貼って下さい。貼り付ける際には汚れや油分等をきれいに除去して下さい。

OK 以上で取り付けは終了です。

●各種お取り付けを行います

⚠ 注意

ボンネットスイッチ(別売)とドアスイッチの両方を接続した場合、ボンネットを開けた時もルームランプや、半ドア警告灯が点灯します。整備等で長時間ボンネットを開けたままにされる場合には、ルームランプのスイッチをお切り下さい。

■ボンネットスイッチを取り付ける場合



- ボンネットスイッチ(別売)の取り付けを行うことにより、ボンネットが開いている時には、リモコンでのエンジン始動が出来なくなり、作業中の安全を確保出来ます。出来るだけボンネットスイッチの取り付け、配線を行って下さい。取り付けに関しては、ボンネットスイッチ付帯の取付説明書をよくお読み下さい。

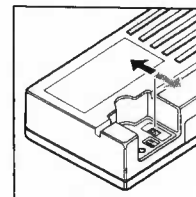
■ドアスイッチ配線を行う場合



- ドアスイッチの配線を行う事により、リモコンでのエンジン始動中に、運転席のドアを開けるとエンジンを停止させる事が出来るようになります。

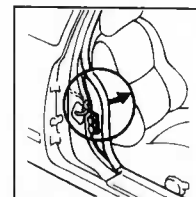
STEP-1 ●一旦本体のパワースイッチを切ります。

端子配線等を行った車両は、安全センサーケーブルが本体に接続されているので、一旦外して下さい。



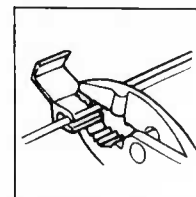
STEP-2 ●運転席のドアスイッチ配線を探します。

ドアを開けた時は0V、閉めた時に12Vとなる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)



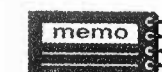
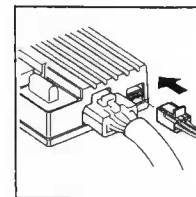
STEP-3 ●安全センサーケーブルの茶色線を接続します。

安全センサーケーブルの茶色線は、ボンネットスイッチ配線と共用になっています。ボンネットスイッチを取り付けない場合には、茶色線のギボシ端子を、ニッパ等で切断し付属のエレクトロタップで接続します。



STEP-4 ●安全センサーケーブルを本体に接続します。

以上でドアスイッチ配線は終了です。パワースイッチをONにしてドアを開いた状態で、リモコンでエンジン始動後、ドアを開けてエンジンが停止する事を確認して下さい。



お車の半ドア警告灯やルームランプを点灯させる為の線です。

●動作確認を行います

⚠ 危険

安全の為、パーキングブレーキをしっかりとかけて下さい。重大事故につながる恐れがあります。



エンジン始動後は、本体から警告音(ブツ)が数秒間隔で鳴り始め、アイドリングの残り時間に応じて間隔が短くなり、連続音へと変わります。

⚠ 注意

車種によっては、キーをACCの位置にしないとシフトレバーが動かせないものもあります。その場合は、キーをACCの位置まで差し込んで確認して下さい。

⚠ 注意

一部のデジタルメーター搭載車ではリモコン始動後、少し遅れてメーターパネルが点灯することがあります。

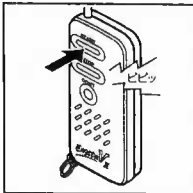
⚠ 注意

右に記載している症状は、取付時に発生しなくても、数日後に発生する場合があります。症状が発見された時点で処置して下さい。

STEP-1

- リモコンのスタートスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、スタートスイッチ音(ピピッ)が鳴るまで押します。



STEP-2

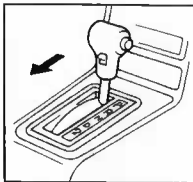
- お車のエンジンが始動します。

本体が信号を受信すると、まずメーターパネルが点灯します。そして数秒後にセルモーターが回りエンジンが始動します。一度で始動しない場合は、3回まで自動的に再始動(リトライ)します。

STEP-3

- シフトセンサーの確認をします。

リモコンでエンジンを始動させた後、キーを差し込まずにフットブレーキをしっかりと踏みながら、シフトレバーをゆっくりとPレンジからRレンジへと動かします。この時エンジンが止まる事を確認します。



■動作確認上の不具合に於ける症状別Q&A

症状

L端子検出へ変更

Q. エンジンは始動しているのに数秒で停止してしまい、自動的に再始動(リトライ)が行われてしまう場合、又はエンジンは始動していないのにメーターパネルが点灯したままになってしまう場合は…

A. エンジンの自動始動検出が、うまく行われていないと考えられます。詳しくは、12ページの「L端子検出へ変更」を参照して下さい。

症状

始動パターン切替

Q. 一部のディーゼル車等で、寒冷時に始動がうまく行われない場合は…

A. グロー(予熱)時間がたりない事が考えられます。詳しくは、25ページの「始動パターンの切替」を参照して下さい。

症状

セル時間延長

Q. セルモーターの駆動時間が短いため、1回目のセル駆動でエンジンがかからず、リトライしてしまう場合は…

A. セルモーターの駆動時間を学習させることが出来ます。詳しくは、17ページの「キー始動学習機能」を参照して下さい。

症状

ABS警告灯対応

Q. リモコン始動後にABS警告灯などが消灯しない場合は…

A. キー始動学習を行うことで警告灯が消灯ようになります。詳しくは、17ページの「キー始動学習機能」を参照して下さい。

症状

フットブレーキ検出

Q. リモコンでエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しない場合は…

A. オートマチックシフトの検出がうまく行われていないと考えられます。詳しくは、14ページの「フットブレーキ検出へ変更」を参照して下さい。

OK

以上動作確認は終了です。

●各種お取り付けを行います

⚠ 注意

ディーゼル車は必ずL端子検出へ変更して下さい。



車両によって車室内からL端子線を接続出来るお車もありません。詳しくは技術サービスまでお問い合わせ下さい。

⚠ 注意

接触不良がおきない様に確実に取り付けして下さい。

⚠ 注意

灰色線がボディの金属部分に触れると、ショートを起こし車両故障の原因になる恐れがあります。

■L端子検出へ変更

(動作確認後、必要な場合のみ)

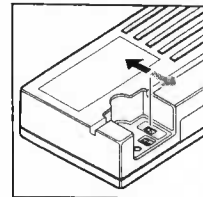


- L端子検出へ変更することで、環境変化や車両の経年変化に応じたエンジン始動を、より確実にを行うことが出来ます。

STEP-1

- 一旦本体のパワースイッチを切ります。

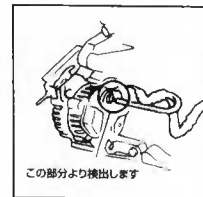
フットブレーキ配線等を行った車両は、安全センサーケーブルが本体に接続されているので、一旦外して下さい。



STEP-2

- 車両のオルタネーターから出ているL端子線を探します。

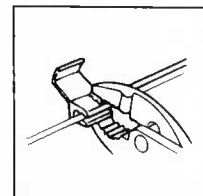
L端子線とはイグニッションONの時1~3V、エンジン駆動中12~14Vになる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)



STEP-3

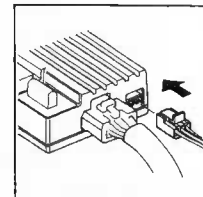
- 安全センサーケーブルの灰色線を接続します。

付属の安全センサーケーブルの灰色線を、車室内からエンジンルームに引き込み、オルタネーターから出ているL端子線に、付属のエレクトロタップで接続します。



STEP-4

- 安全センサーケーブルを本体に接続します。



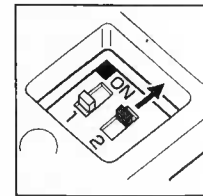
STEP-5

- モードスイッチの2番をONにします。

OK

以上でL端子検出への変更は終了です。

パワースイッチをONにしてリモコンで問題なくエンジン始動出来ることを確認して下さい。L端子配線が正しく接続されているか確認することが出来ます。詳しくは13ページの「L端子誤配線チェック機能」を参照して下さい。



●各種機能

■L端子誤配線チェック機能

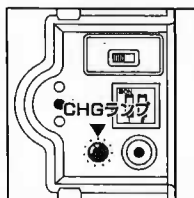
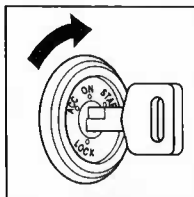


●L端子配線が正しく接続されているか否かを、本体の「CHGランプ」の動作で確認する事が出来ます。尚、この機能は「モードスイッチの2番がONの時」にのみ行う事が出来ます。

STEP-1 ●キーを差し込みONの位置にします。

この時、「CHGランプ」が点灯することを確認します。(点灯したらSTEP-2へ進んで下さい。)

「CHGランプ」が点灯しない場合、L端子配線の接続先の間違いや接触不良が考えられます。(イグニッションON時に、約7V以上を検出しています。)

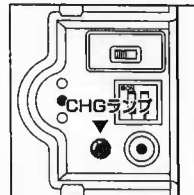
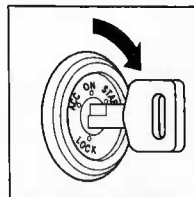


STEP-2 ●上記操作後30秒以内に、キー操作でエンジンを始動します。

エンジンが始動すると同時に「CHGランプ」が消灯すれば、L端子配線は正しく接続されています。

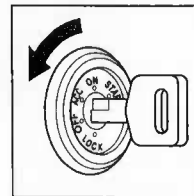
「CHGランプ」が消灯しない場合、L端子配線が間違っていると考えられますので配線先を見直して下さい。(エンジン始動後も約7V未満を検出しています。)

尚、30秒以内に操作が完了しないと、確認は出来ません。時間が過ぎると、警告音(ビービー)がして「CHGランプ」は消灯します。



STEP-3 ●キーをOFFにしてエンジンを停止します。

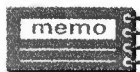
CHGランプが正常に動作しなかった場合は、配線を見直して下さい。詳しくは、12ページの「L端子検出へ変更」を参照して下さい。



OK 以上でL端子誤配線チェックは終了です。

⚠注意

この時、エンジン始動させないで下さい。



L端子配線が外れたり、接触不良になっていると、キー操作でエンジン始動した30秒後に警告音(ビービー)が鳴り、お知らせします。

●各種お取り付けを行います

■フットブレーキ検出へ変更

フット
ブレーキ検出

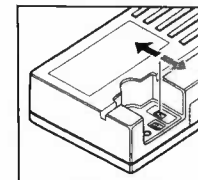
(動作確認後、必要な場合のみ)



●フットブレーキ検出を行うことにより、リモコンでのエンジン始動中に、フットブレーキを踏むことでエンジンを停止させることが出来るようになります。

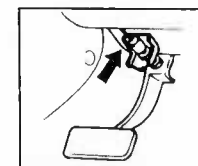
STEP-1 ●一旦本体のパワースイッチを切ります。

L端子配線等を行った車両は、安全センサーケーブルが本体に接続されているので、一旦外して下さい。



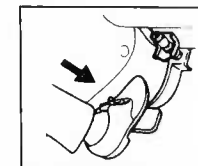
STEP-2 ●車両のフットブレーキスイッチを探します。

フットブレーキスイッチはブレーキアームの根元付近にあります。



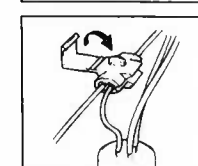
STEP-3 ●ブレーキペダルを踏んだ時に、約12Vの電圧が発生する線を見つけます。

フットブレーキスイッチから出ている線の内、ブレーキペダルを踏まない時は0V、踏んだ時に約12Vになる線を見つけて下さい。(必ずテスターをご使用下さい。)

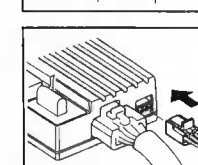


STEP-4 ●安全センサーケーブルの白色線を接続します。

付属の安全センサーケーブルの白色線をSTEP-3で見つけた配線に付属のエレクトロタップで接続します。



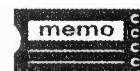
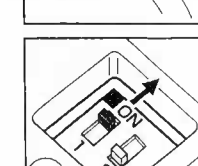
STEP-5 ●安全センサーケーブルを本体に接続します。



STEP-6 ●モードスイッチの1番をONにします。

OK 以上でフットブレーキ検出への変更は終了です。

パワースイッチをONにしてリモコンでエンジン始動後、フットブレーキを踏んでエンジンが停止する事を確認して下さい。



フットブレーキとは、フット式パーキングブレーキの事ではありません。又、配線の接続先は、お車のストップランプを点灯させる為の線です。

⚠注意

接触不良がおきない様に確り取り付けて下さい。

●各種機能

■キー始動学習機能

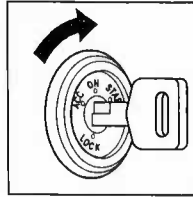
セル時間
延長

ABS
警告灯対応



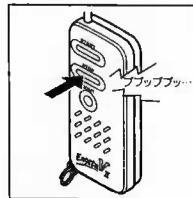
●キー始動学習機能を行うことにより、リモコン始動時のABS警告灯等の未消灯対策やセルモーター駆動時間の学習登録を行うことができます。

STEP-1 ●キーをONの位置にします。



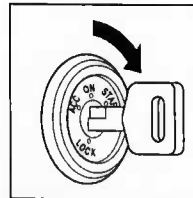
STEP-2 ●上記操作後10秒以内にリモコンのストップスイッチを押します。

本体から断続音(ブブブブ...)が鳴ります。

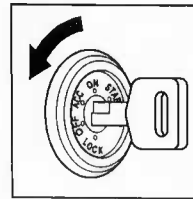


STEP-3 ●上記操作後30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。

本体から受付音(ブブブ)がしてキー始動学習が行われたことを知らせます。セルモーターの駆動時間は「0.8~2.5秒」の範囲で学習され、リモコン始動時、1回目のセル駆動時間に登録されます。(2回目、3回目も通常通り延長されます。)よって、通常使用時と同一環境下で学習を行うと効果的です。



STEP-4 ●キーをOFFの位置にします。



OK 以上でキー始動学習機能は終了です。

⚠ 注意

この時、エンジンは始動させないで下さい。

⚠ 注意

10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。一旦、キーをOFFの位置に戻し、STEP-1からやり直して下さい。

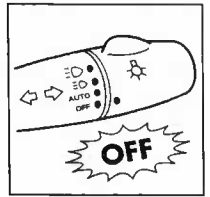
⚠ 注意

30秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。(本体から“ピーピー”という警告音が出ます。)また、セルモーター駆動後も受付音(ブブブ)がせず、断続音(ブブブブ...)が継続されている場合には、一旦、キーをOFFの位置に戻し、STEP-1からやり直して下さい。

●ご使用上の注意

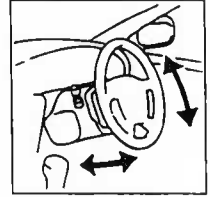
●オートライト装着車について。

オートライト装着車は、夜間(及び暗い場所)でのリモコンエンジン始動時のライト点灯を防ぐため、お車を駐車する際には、ライトスイッチをOFFにして下さい。又、オートで夜間(及び暗い場所)にリモコンエンジン始動を行うと、自動停止やリモコンによるエンジン停止後もライトが消灯しないお車(主にトヨタ・日産車)もありますので、ご注意ください。バッテリー上がりの原因となります。※別売りアダプターをお取り付け頂くことで、「AUTO」ポジションでご使用出来るお車もあります。



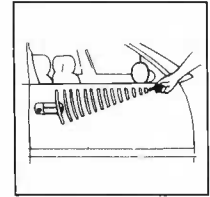
●オートチルト装着車について。

リモコンでエンジン始動中、乗車してキーを差し込んでもオートチルトが作動しないお車は、リモコンでエンジンを止めてキーでエンジンを始動してください。これは、オートチルト及びマイコンプリセットの仕様によるもので、異常ではありません。尚、ドアスイッチへの配線を行うことで、ドアを開けると同時にエンジンを停止させる事も出来ます。詳しくは16ページの「ドアスイッチ配線を行う場合」を参照して下さい。



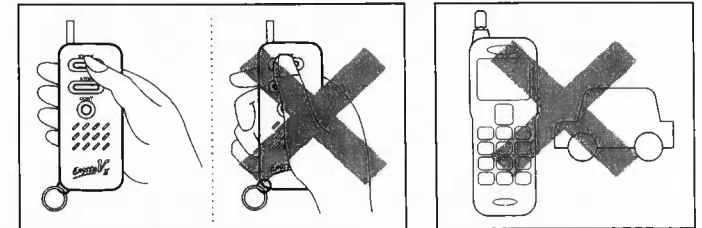
●リモコンドアロック装着車について。

リモコンでエンジン始動中、リモコンドアロックの操作ができないお車は、リモコンでエンジンを停止してから操作を行うか、キーを使ってドアを開閉してください。これは、リモコンドアロックの仕様によるもので異常ではありません。※別売りアダプターをお取り付け頂くことで、リモコンのCONTスイッチ操作で、作動出来るようになります。(一部の車種を除く)



●リモコン送信について。

送信時にリモコンを手で覆うと送信距離(電波到達距離)は半減しますので、ご注意ください。また、通話中の携帯電話やPHSのすぐ側に本体があると、始動距離が短くなる場合があります。



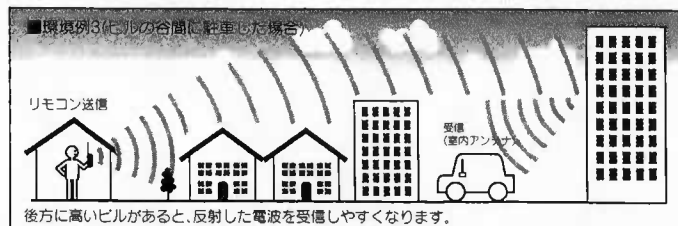
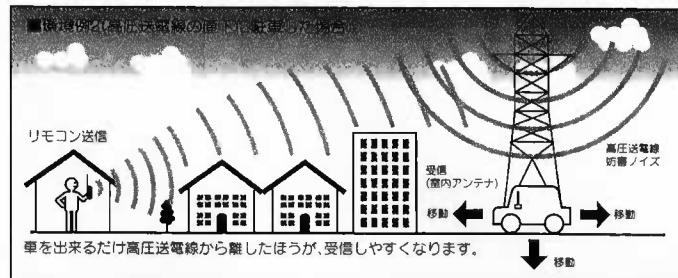
●ご使用上の注意

●電波到達距離について。

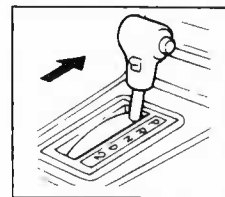
電波到達距離は、周囲の環境、室内アンテナの設置状態、リモコンの扱い方等によって変化します。一般的に、TV局や大出力の無線設備、高圧送電線等のノイズ発生源付近では、電波到達距離は短くなります。又、送信(リモコン)場所と車(本体)との間に鉄筋コンクリートの建築物がある場合も、電波到達距離は短くなります。

効率良く電波を送信し、電波到達距離を伸ばすには、

1. リモコンを持つ手を上に伸ばして送信したり、二階から送信する等、リモコン送信を高い位置から行うと、電波が到達(受信)しやすくなります。
2. 駐車場が近くても障害物がある場合は、屋外からリモコン送信するか、送信時に窓を開けると電波が到達(受信)しやすくなります。特に、鉄線の入ったガラスは、電波が透過しづらいのでご注意ください。

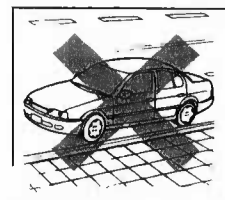


●ご使用上の注意



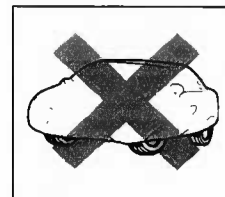
⚠ 注意

シフトレバーは必ずPレンジに入れて駐車して下さい。(リモコンでエンジン始動を行うた場合には、Pレンジ以外でもキーが抜ける事があります。)パーキングブレーキは必ずかけて下さい。



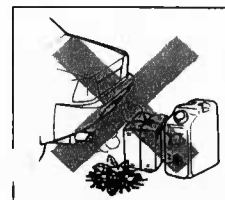
⚠ 警告

公道上ではご使用にならないで下さい。必ず駐車場、又は私有地内でご使用下さい。(公道上での使用は違法となります。)



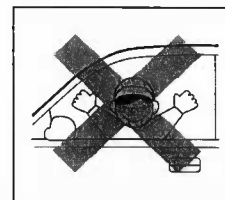
⚠ 危険

お車にボディーカバー等を掛けたままでご使用にならないで下さい。(火災の恐れがあります。)



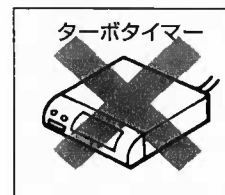
⚠ 危険

リモコンでエンジンを始動する時は、車の近くに可燃物が無いことを確認してからご使用下さい。(火災の恐れがあります。)



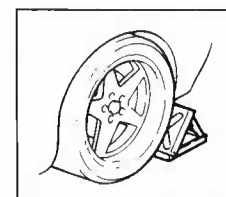
⚠ 危険

人(特にお子様)やペットが車室内にいる時は、絶対にエンジンを始動しないで下さい。(お子様による車両の操作やペットの思わぬ動きが重大事故につながる恐れがあります。)



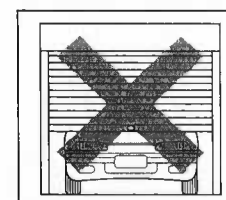
⚠ 注意

他社製エンジンスターターやターボタイマーとの併用は、絶対にしないで下さい。(故障や誤動作の原因となります。)



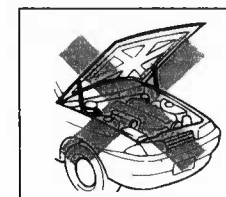
⚠ 注意

斜面で使用される場合は、必ず輪止めをして下さい。



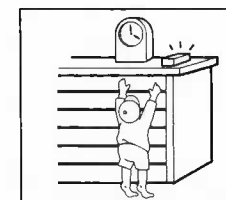
⚠ 危険

密閉されたガレージ内ではご使用にならないで下さい。(排気ガスが充満して危険です。)



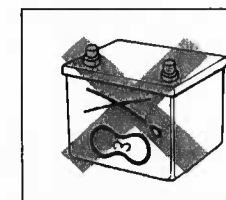
⚠ 危険

ボンネットを開ける時は本体のパワースイッチを切って下さい。又は別売のボンネットスイッチを取り付けて下さい。(事故の恐れがあります。)



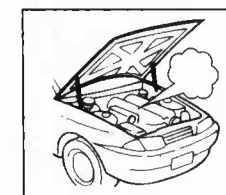
⚠ 危険

リモコンは、お子様の手の届く所には、置かないで下さい。(事故の恐れがあります。)



⚠ 注意

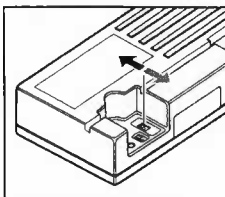
バッテリーの弱っているお車や改造車では、正常にエンジン始動出来ない場合があります。



⚠ 注意

暖気運転を行った直後に運行前点検を行うと火傷をする恐れがあります。エンジンを停止後、火傷の恐れのないことを確認してから運行前点検を行って下さい。

●ご使用上の注意



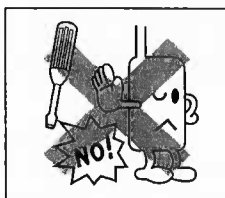
⚠ 危険

下記の場合には、パワースイッチを切ってください。
●整備、車検等でお車をお預けになる場合。
●当商品の取り扱い方を知らない方が運転する場合。
(事故の恐れがあります。)



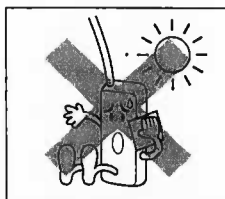
⚠ 注意

環境保護のため必要以上のアイドリングは、行わないで下さい。



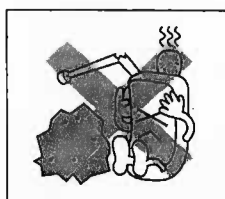
⚠ 警告

この商品は特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けております。分解・改造することは法律で禁じられています。
(絶対にしないで下さい。)



⚠ 注意

リモコンは、高温になる場所には放置しないで下さい。
(変形、変色や故障の原因となります。)



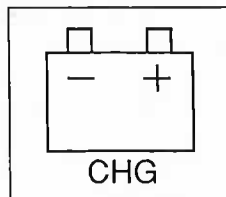
⚠ 注意

リモコンを落としたり、硬いものにぶつけないで下さい。
(故障の原因となります。)



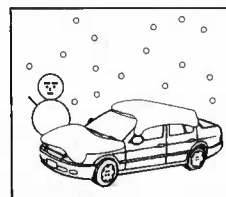
⚠ 警告

リモコン及び本体が汚れた場合は、薄めた中性洗剤をしみ込ませた布をよくしぼってからふき、乾いた布でもう一度ふいて下さい。ペンジン、シンナー等は絶対にご使用にならないで下さい。
(変形、変色や故障の原因となります。)



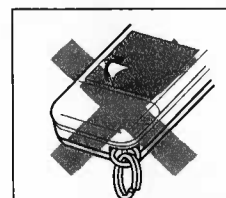
⚠ 注意

キーでエンジンを始動した後に車両の充電警告灯が消えない場合には、エンジンスタートを使用せずに車両の点検整備をして下さい。



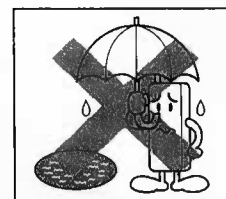
⚠ 注意

寒冷地ではエンジンがかかりにくいことがあります。キー操作のみで3秒以内にエンジンが始動するように車両を整備して下さい。



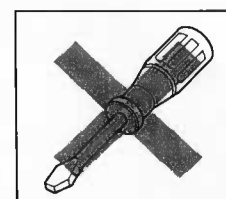
⚠ 警告

認証ラベルを剥がしたり、ラベルの無いものを使用することは法律で禁じられています。
(絶対にしないで下さい。)



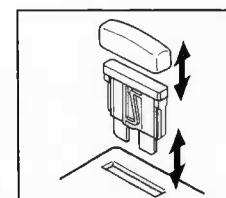
⚠ 注意

リモコン、及び本体は水に濡らさないで下さい。
(故障の原因となります。)



⚠ 注意

本体の内部に物を入れないで下さい。
(故障の原因となります。)又、分解・改造はしないで下さい。
(保証出来ません。)



⚠ 注意

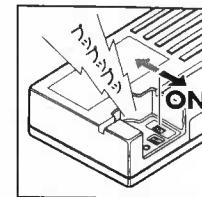
ヒューズ切れの前後は高温となりますので、交換には充分注意して下さい。
又、交換作業等でのヒューズキャップ付け忘れや、取り外したままの使用は危険です。必ずキャップをして、ご使用下さい。

●ご使用方法

■リモコンでエンジン始動

STEP-1

●本体のパワースイッチをONにします。
本体から音(ブブブブ)が鳴ります。



⚠ 注意

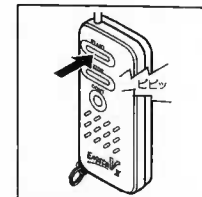
停車時に、下記の事を確認して下さい。
1.パーキングブレーキを確実にかける。
2.シフトレバーはPレンジに入れる。
3.必要に応じて、エアコン(ヒーター)をセットする。
4.キーを抜く。
●車両によってはPレンジ以外でキーが抜ける場合がありますのでご注意ください。



リモコンによるエンジン駆動中は、本体から警告音(ブツ)が数秒間隔で鳴り続け、使用者にキー以外のエンジン始動を知らせます。

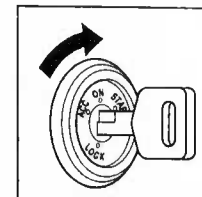
STEP-2

●リモコンでエンジンを始動します。
リモコンのロッドアンテナを、最後まで引き伸ばして、スタートスイッチを音(ビッ)が鳴るまで押します。数秒後、セルモーターが回りエンジンが始動します。一度で始動しない場合は、3回まで自動的に再始動(リトライ)します。



STEP-3

●走行します。
お車のキーを差し込み、ONの位置まで回して下さい。後は通常通り走行出来ます。尚、ドアスイッチへの配線を行っている場合、ドアを開けるとエンジンは停止しますので、キーにて再度エンジン始動して下さい。



■リモコンでエンジン停止



●リモコンによるエンジン駆動中は、リモコンのストップスイッチを音(ピー)が鳴るまで押すことで、ただちにエンジンを停止させることが出来ます。

■タイマーで自動停止



●リモコンによるエンジン始動後、約20分(設定により10分/30分変更可能)*でエンジンは自動停止します。

*詳しくは、24ページの「アイドリング時間の設定(10分/20分/30分)」を参照して下さい。

●ご使用方法

⚠ 注意

「本体動作の停止」を行うと「本体動作の復帰」を行うまで全ての動作が停止します。パワースイッチ操作では復帰しません。



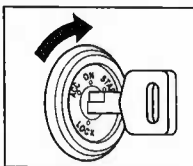
車検等で車を整備工場にお預けになる場合や、お取り扱いの判らない方が運転される場合に、ご使用下さい。

■本体動作の停止



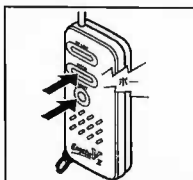
●リモコン操作により、本体の全ての機能を停止させることができます。

STEP-1 ●キーを差し込みONの位置にします。

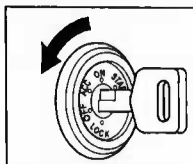


STEP-2 ●上記操作後5秒以内にリモコンのCONTスイッチとストップスイッチを同時に、音(ポーツ)が鳴るまで約5秒間押し続けます。

本体から反応音(ブーツ)が鳴り、本体の全ての機能が停止します。



STEP-3 ●キーをOFFの位置にして、抜き取ります。

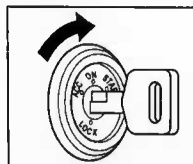


■本体動作の復帰



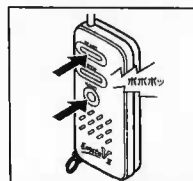
●リモコン操作により、本体全ての機能を復帰させることができます。

STEP-1 ●キーを差し込みONの位置にします。

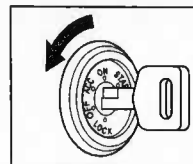


STEP-2 ●上記操作後5秒以内にリモコンのCONTスイッチとスタートスイッチを同時に、音(ポポポツ)が鳴るまで約5秒間押し続けます。

本体から反応音(ポポポツ)が鳴り、本体の全ての機能が復帰します。



STEP-3 ●キーをOFFの位置にして、抜き取ります。



●ご使用方法

⚠ 注意

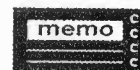
この時、エンジンは始動させないで下さい。

⚠ 注意

リモコンのスイッチは、反応音があつたら離して下さい。押し続けると、2~3秒後に「スタート信号が送信され、130分」に設定されます。

⚠ 注意

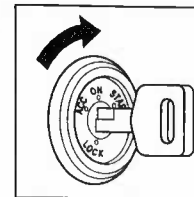
30秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。(本体から「ピーピー」という警告音がします。)



お取り付け時(初期状態)のアイドリング時間は、「20分」

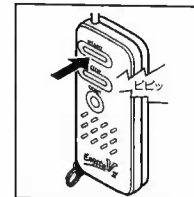
■アイドリング時間の設定(10分/20分/30分)

STEP-1 ●キーを差し込みONの位置にします。



STEP-2 ●上記操作後10秒以内にリモコンのスタートスイッチを音(ビビッ)が鳴るまで押します。

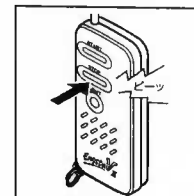
本体から断続音(ブブブブブブ...)が鳴ります。



STEP-3 ●上記操作後30秒以内に次の操作を行います。

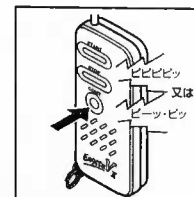
(1)「10分」に設定する場合。

リモコンのストップスイッチを音(ピーッ)が鳴るまで押します。本体から受付音(ブー)が鳴ります。



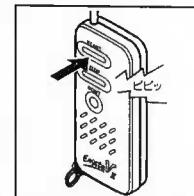
(2)「20分」に設定する場合。

リモコンのCONTスイッチを音(ビビビッ又はピーッ・ビッ)が鳴るまで押します。本体から受付音(ブーブー)が鳴ります。

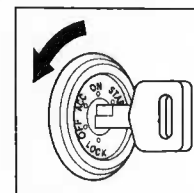


(3)「30分」に設定する場合。

リモコンのスタートスイッチを音(ビビッ)が鳴るまで押します。本体から受付音(ブーブーブー)が鳴ります。



STEP-4 ●キーをOFFの位置にします。



OK 以上でアイドリング時間の設定は終了です。

●ご使用方法

⚠ 注意

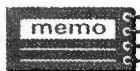
この時、エンジンは始動させないで下さい。

⚠ 注意

リモコンのスイッチは、反応者があつたら離して下さい。押し続けると、2~3秒後に再度ストップ信号が送信され、ターボタイマーの設定が解除されます。

⚠ 注意

30秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。(本体から「ピーピー」という警告音がします。)



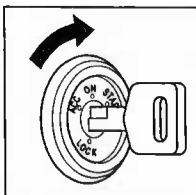
お取り付け時(初期状態)の始動パターンは、「ガソリン車/グローの短いディーゼル車」です。

■始動パターンの切替(ガソリン車/ディーゼル車) 始動パターン切替



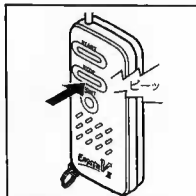
●一部のディーゼル車等で、グロー(予熱時間)が必要な場合、以下の操作をすることにより設定することが出来ます。

STEP-1 ●キーを差し込みONの位置にします。



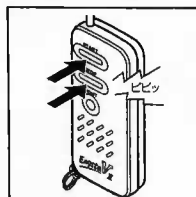
STEP-2 ●上記操作後10秒以内にリモコンのストップスイッチを音(ビーツ)が鳴るまで押します。

本体から断続音(ブブブブ...)が鳴ります。

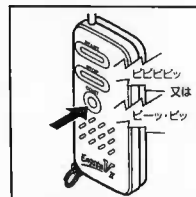


STEP-3 ●上記操作後30秒以内に次の操作を行います。

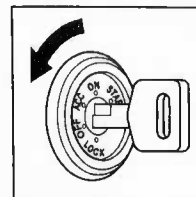
(1)「ディーゼル車(グロー6秒程度)」に設定する場合、
リモコンのスタートスイッチとストップスイッチを同時に音(ビビッ)が鳴るまで押します。
本体から受付音(ブービー)が鳴ります。



(2)「ガソリン車/グローの短いディーゼル車」に設定する場合、
リモコンのCONTスイッチを音(ビビビビッ)又はピーッ・ビッが鳴るまで押します。
本体から受付音(ブービー)が鳴ります。



STEP-4 ●キーをOFFの位置にします。



OK 以上で始動パターンの切替は終了です。

●メンテナンス

⚠ 注意

お買い上げの製品にセットされている電池は検査時に機能や性能をチェックするモニター電池のため、短期間の使用で寿命となる場合があります。

⚠ 注意

電池交換の際は、2個とも新品の電池(アルカリボタン電池LR44)に交換して下さい。

⚠ 注意

電池の+、-の向きに注意します。



電池交換後は送信テストを行いましょう。

⚠ 注意

専用ハーネスをはずしたり、溝にお車のバッテリーを交換した場合、再度オートマチック車の登録(その他設定)からやり直す必要があります。



IDコードの設定は本体側の操作で行えますので、本体をお送り頂く必要はありません。

⚠ 注意

元のリモコンは使用出来なくなります。

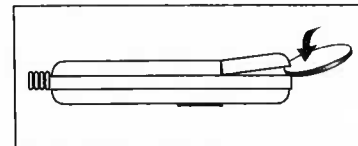
■電池の交換方法



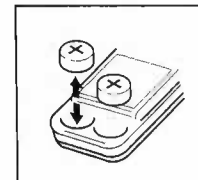
●本商品は、新品の電池で約3,000回以上(通常の使用で2年程度)使用出来るように設計されております。使用中、電波到達距離が短くなってきたら電池を交換して下さい。

STEP-1 ●電池蓋を外します。

コイン等を利用して、電池蓋と、ケースの溝に差し込み、ひねります。

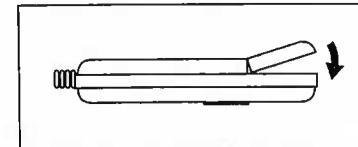


STEP-2 ●電池(LR44)を交換します。



STEP-3 ●電池蓋を閉じます。

外した時と逆の要領で電池蓋を閉じます。



■本体の電源を切る時は



●お車を車検整備に出す時や、旅行等により長期間使用しない場合は安全の為、本体のパワースイッチを切ってください。尚、本商品はメモリーセーブ機能を採用しております。再度お使いになる場合、パワースイッチをONにするだけでご使用出来ます。

■リモコンを紛失した時は



●リモコンを紛失又は破損(修理不可能の場合)した場合は、リモコンのみの購入が出来ます。この場合、新しいリモコンのIDコードを本体に登録する必要があります。詳しくは、リモコン付帯の説明書をご覧ください。

(リモコンは、販売店又は取扱店へご注文下さい。定価9,500円)

●故障とお考えになる前に

このような時	チェックして下さい	処置
・リモコンのスタートスイッチを押しても音が鳴らない	・スイッチを押す時間が短くありませんか？ ・リモコンの電池は消耗していませんか？	・0.5秒以上スイッチを押してください ・電池を新品に交換してください
・本体から「ブーー、ブーー…」音が鳴っていて、リモコンのスタートボタンを押しても、まったく作動しない	・バッテリー端子を外したり、バッテリー交換を行いましたか？ ・ヒューズ交換、専用ハーネスとのカブラー脱着及び黒色アース線の再接続を行いましたか？	・オートマチック車の登録情報が消去されています ・再度「オートマチック車の登録」を行ってください ・オートマチック車の登録情報が消去されています ・再度「オートマチック車の登録」を行ってください
・オートマチック車の登録は行ったが、リモコンのスタートスイッチを押してもまったく作動しない	・本体のパワースイッチはONになっていますか？ ・「本体動作の停止」の設定をされていますか？ ・音(ビピッ)がするまでスタートスイッチを押していますか？ ・お車のキーがONになっていませんか？ ・リモコンのアンテナを伸ばしていますか？ ・室内アンテナのアンテナプラグが外れていませんか？ ・リモコンの電池は消耗していませんか？ ・車両のバッテリー端子が外れていませんか？ ・15日以上エンジンの始動を行わない状態でしたか？	・本体のパワースイッチをONにしてください ・「本体動作の復帰」の設定を行ってください ・音(ビピッ)がするまで押し続けてください ・キーを抜いてください ・アンテナを伸ばしてください ・アンテナプラグを差し込んでください ・電池を新品に交換してください ・端子を接続しオートマチック車の登録を行ってください ・スリープモードになっています。本体のパワースイッチを一旦切って入れ直すか、キー操作でエンジンを始動させてください
	・お車のバッテリーは弱っていませんか？ ・運転席のドアスイッチへの配線(任意)を行って、ドアを開いていませんか？ ・ボンネットスイッチ(オプション)の配線を行ってボンネットを開いていませんか？ ・ドアスイッチへの配線(任意)が間違っていますか？ ・フットブレーキへの配線(必要時)が間違っていますか？	・お車のバッテリーを充電してください ・ドアを開けてください ・ボンネットを開けてください ・正しく配線してください ・正しく配線してください
・リモコンのスタートスイッチを押すとメーターパネルは点灯するが、始動しない	・お車のシフトレバーがPレンジに入っていますか？ ・お車のバッテリーは弱っていませんか？ ・専用ハーネスの品番は正しいですか？	・シフトレバーをPレンジに入れてください ・お車のバッテリーを充電してください ・車種別専用ハーネス選定表を再度確認して下さい
・リモコンのスタートスイッチを押してもエンジンは始動せず、再始動(リトライ)を行う	・オルタネーター(L端子)配線を行いましたか？ ・お車のバッテリーは弱っていませんか？ ・セルモーターの駆動時間が短くありませんか？	・オルタネーター(L端子)配線を行ってください ・お車のバッテリーを充電してください ・「キー始動学習」を行ってセルモーターの駆動時間を延長させて下さい
・リモコンのスタートスイッチを押すと、一旦エンジンは始動するが、10秒位で停止してしまい、再始動(リトライ)を行う	・オルタネーター(L端子)配線を行っていますか？	・オルタネーター(L端子)配線を行ってください。また、正常に配線されているかを「端子接続チェック機能」で確認して下さい
・本体の電源が入らない	・本体のヒューズが切れていませんか？ ・専用ハーネスのカブラーが外れていませんか？ ・専用ハーネスの黒線(アース線)が外れていませんか？	・ヒューズを交換してください ・カブラーを確実に差し込んでください ・黒線(アース線)を確実に接続してください
・始動距離が短くなった	・リモコンの電池は消耗していませんか？ ・リモコンのアンテナに体の一部が触れていませんか？ ・リモコンのアンテナを伸ばしていますか？ ・室内アンテナのアンテナプラグが本体から外れていませんか？ ・周囲の環境は変化していませんか？	・電池を新品に交換してください ・送信の際はアンテナに触れないようにしてください ・アンテナを伸ばしてください ・アンテナプラグを差し込んでください ・19ページの「電波到達距離について」を参照してください
・リモコンのスタートスイッチを押してもエンジンは始動せず、警告音(ビー・・・ビー・・・)が鳴り続ける	・シフトレバーがPレンジに入っていますか？ ・お車のキーがACCになっていませんか？ ・専用ハーネスの品番は正しいですか？	・シフトレバーをPレンジに入れてください ・キーを抜いてください ・車種別専用ハーネス選定表を再度確認してください。お車の車種名・年式・型式をハーネス表に照合後、品番が正しい場合は技術サービスまでお問い合わせください ★警告音はキーをONにすれば停止します

●仕様

●リモコン

■型式名	ES-5T
■技術基準	RCR標準規格 テレコントロール用 無線設備適合
■送信周波数	426MHz帯の10波のうち1波使用
■通信方式	単方向通信方式
■送信出力	1mW以下
■電波方式	MSK変調1200bps
■呼出名称	送信時自動送出
■周波数安定度	±4ppm以下
■周波数偏移	±2.5KHz以内
■スイッチ	スタート/ストップ/コントロール
■重量	20g(電池含む)
■送信確認方式	ブザー
■送信時間	3秒以内
■送信休止時間	2秒以上
■送信アンテナ	内蔵ロッドアンテナ
■制御コード	アドレスコード32ビット/ コントロールコード8ビット
■動作温度範囲	-20°C~+60°C
■定格電圧	DC3V
■使用電池	アルカリボタン電池 LR44×2個
■電池寿命	電池交換無しで3000回以上送信可能
■外観寸法	66.5mm(H)×29mm(W)×12mm(D) (突起物除く)

●本体

■型式名	ES-5R
■受信周波数	426MHz帯の10波のうち1波使用
■受信感度	-9db μV以下
■周波数安定度	±4ppm以下
■アンテナ	1/4λ室内アンテナ
■動作温度範囲	-20°C~+70°C
■復調コード	アドレスコード32ビット/ コントロールコード8ビット
■電源電圧	最低動作電圧DC8.5V 最高動作電圧DC16V
■パワー系制御電流	最大電流80A
■外観寸法	32mm(H)×120mm(W)×70mm(D) (突起部除く)
■消費電力	通常待機時平均7mA以下 スリープモード時700 μA
■始動検出	専用ハーネス(自動)
■安全対策	オルタネーターL端子(選択) パーキングポジション(自動) フットブレーキ(選択)
■ヒューズ	自動車用ブレードヒューズ25A
■タイマー	20分後自動停止(設定により10分/30分変更可能)
■重量	140g

仕様及び外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

●別売りアダプター

品名	機能概要	定価
C207	ボンネットスイッチ ボンネット開閉検出用スイッチです。ボンネットを開けている時は、リモコン始動を受け付けません。	¥2,800
H241	ホンダレジェンド用 DPSアダプター ホンダレジェンドのDPSでAUTO機能が使用出来るようになります。	¥3,800

●アフターサービスについて



●使用中に正常に動作しなくなった時は、まず本文の「故障とお考えになる前に」を参考にしてチェックして下さい。「処置」を行っても改善が見られない時は、お買い上げ店を経由して当社技術サービスにお申し付け下さい。



●本商品を修理依頼される場合は、①保証書②本体③リモコン④故障内容・状況を明記したメモの4点をセットにして、お買い上げ店へ直接ご持参下さい。



●保証期間を過ぎた場合は、住所・氏名・電話番号を明記し、上記とセットでお買い上げ店へ直接ご持参下さい。尚、この場合は有償修理となります。

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

〈保証規定〉

本商品は、厳重な品質管理のもとに製造され、検査に合格し、出荷されておりますが、お客様の正常な状態でのご使用中、万一故障が発生した場合には、本保証書の記載内容に基づき、無償修理をさせていただきます。

●修理は、お買い求め頂いた販売店に、本保証書および不具合内容等を記入したメモ等を添えてご依頼願います。

また、修理の際は必ずリモコンと本体をセットでお渡してください。(リモコンのみでは修理できません)

●この保証書は日本国内に於いてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.

●本保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

尚、下記に該当する場合は、保証期間内であっても保証の対象とはなりませんのでご注意ください。

1. お客様の故意または過失による故障と認められた場合。
2. 商品を分解したり改造したりした形跡が認められた場合。
3. 火災、天災、事故、その他紛争等による損傷。
4. 適応外車両へのお取り付けや当社専用ハーネスをお使いになっていない場合。
5. 取付・取扱説明書中の注意事項を守れなかったことにより発生した故障、損害等。
6. 保証書の添付がないか、あるいは記載事項に不足がある場合。

●消耗部品(電池、アンテナ等)やリモコンのケース破損は保証対象外です。

●修理によって生じた交換部品は原則としてお返しいたしません。

●本商品の製造終了5年以降は使用電子部品の製造中止等により修理不能になる場合がありますので予めご了承ください。

※保証期間経過後の修理については、お買い求め頂いた販売店又は当社までご相談ください。

修理によって機能の維持が可能な場合は、お客様のご要望により有償修理致します。

株式会社 **サンビツ**

〒189-0014 東京都東村山市本町3-5-36
TEL.042-396-6555(代表)